

医療的ケア児の受け入れのための出張研修の効果と課題

研究代表者 島田珠美 スペシャルニーズのある子どもたちの未来を考える会
TOUCH 代表 川崎大師訪問看護ステーション 診療看護師

共同研究者 高橋 泉 駒沢女子大学 看護学部 看護学科 小児看護学教授
上野まり 自治医科大学 看護学部 老年/在宅看護学教授
長 秀男 川崎市南部地域療育センター 所長 医師
土橋隆俊 川崎市立川崎病院 小児科部長 医師
高村彰夫 川崎協同病院 副院長 小児科部長 医師
高橋靖明 川崎協同病院 患者サポートセンター相談室課長 臨床心理士
藤田みち 川崎協同病院 医療型特定短期入所 介護福祉士
保育士
三橋由佳 かわさき障害者福祉施設たじま 生活介護係長 訪問看護認定看護師
江良泰成 たじま家庭支援センター センター長
島津晴美 たじま家庭支援センター 相談員
西巻奈美 青丘社 ほっとライン 相談支援専門員

研究要旨

本研究では、教育職や在宅ケアを支える医療職を対象に、医療的ケア児が生活する地域に出向いて行う研修の効果を検証し、医療的ケア児への支援の発展に向け、地域の医療職と教育職双方に対して、今後どのような研修等が必要かを検討することを目的とした。方法は、教育職と医療職に各1回の研修会を開催し、研修直後にアンケートを行った。また、研修後に承諾が得られた参加者数名に約3か月の期間においてフォーカスグループインタビューを行い、研修の効果と課題などを抽出した。

その結果、教育職では基本的な研修を実技も含めて定期的に繰り返し行うとともに、医療的ケアに係る定期的なミーティングの場が求められていた。医療職では、医療的ケアや制度に関する知識と演習により実際の児に触れ手技を学ぶ研修が求められていた。さらに、実際に医療的ケア児に訪問する中で生じる疑問や悩みに対して相談できる体制が求められていた。

Key Words: 医療的ケア児、学校での医療的ケア、小児訪問看護、出張研修、演習